

## 《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第11週のインフルエンザの推定受診者数は約35万4000人となり、6週連続で減少が見られている一方で、B型インフルエンザの割合の増加がみられている』

2017年3月21日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第11週（3月13日～3月19日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は354,315となり、第6週以降6週連続して減少が続いています（図1）。減少の速度はゆるやかとなってきていますが、第12週は学校の春季休暇の週となりますので、今後も減少は継続していくものと予想されます。

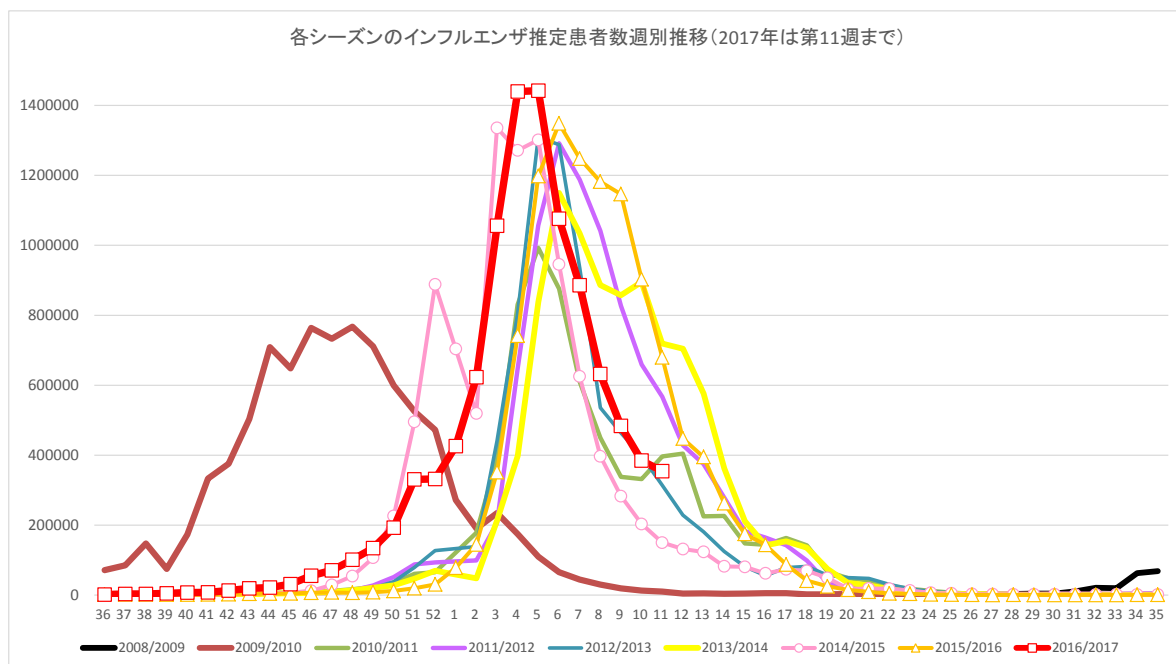


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第11週の推定受診患者数= 354,315）

2016年第36週から2017年第11週までの累積の推定受診患者数は10,133,087と1千万人を超え、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、推定の累積罹患率は約7.98%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳（27.75%、約147万人）、10～14歳（24.29%、約136万人）、0～4歳（17.50%、約90万人）、15～19歳（14.13%、約84万人）、30～39歳（7.48%、約114万人）、20

～29 歳（7.19%、約 91 万人）、40～49 歳（6.61%、約 125 万人）、50～59 歳（5.76%、約 89 万人）の順となっています（図 2）。50 歳代を除く全ての年齢群で減少が続いています。

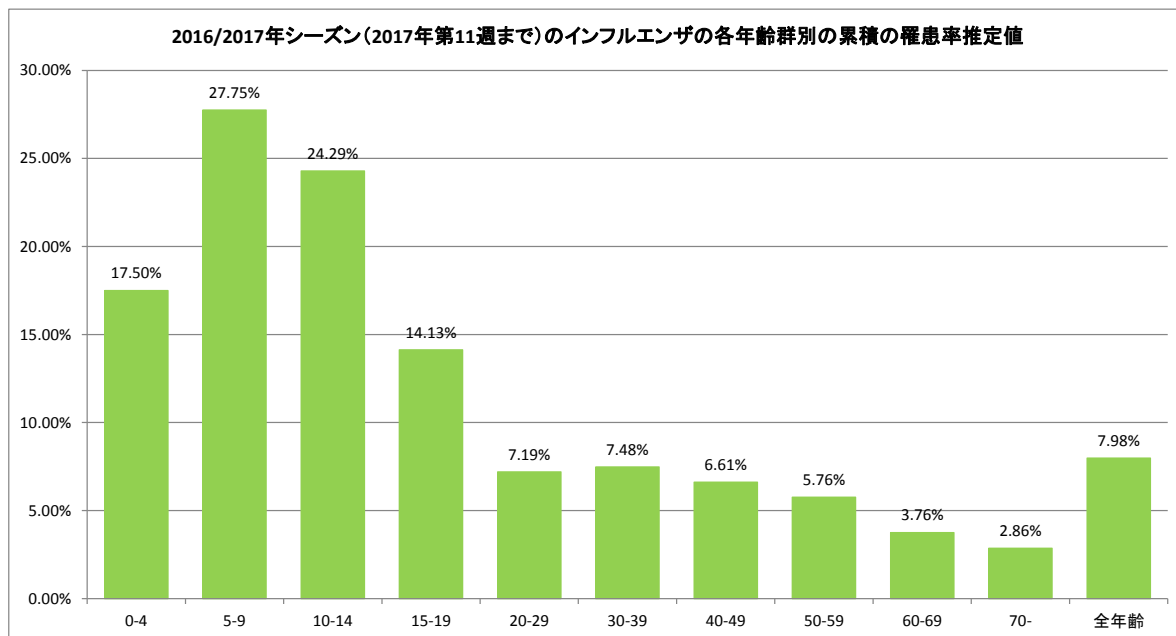


図2. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値（2016 年第 36～2017 年第 11 週、累積の推定受診患者数総計= 10,133,087）

各都道府県別の 2017 年第 11 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、福井県、北海道、秋田県、佐賀県、富山県の順となっており、37 都府県で前週よりも減少が見られました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでにインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（4,819 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 91.6%と大半を占めており、次いで B 型 5.2%、A/H1pdm 3.2%の順となっています。直近の 5 週間をみると B 型の割合が 10%を超えて増加しつつあります。

2017 年第 11 週のインフルエンザの推定受診者数は約 35 万 4000 人となり、6 週連続で減少が見られました。減少は緩やかとなりつつありますが、国内の大半の学校が春季休暇に入りますので、さらに減少が続くと予想されます。一方、B 型インフルエンザの割合は増加しつつあり、今しばらくはインフルエンザの動向には注意が必要です。